

平成 23 年 10 月 7 日

宮城県知事 村井 嘉浩 様

## 嘆願書

海と共生する気仙沼市中心市街地の新たなまちづくりを進めるために

気仙沼復興商店街会長・南町夢通り会長・南町二区自治会長 村上力男  
南町一区自治会長 千葉秀宣  
南町三区自治会長 鈴木武雄  
南町夢通り副会長 齋藤 宏  
南町粕崎青年会長 坂本正人  
気仙沼市復興協会理事長 小野寺幸雄

私共、気仙沼市中心商店街に位置する南町商店街には、三代目、四代目の若手後継者が数多く育ち、活発な活動を展開しています。

このたびの大震災で店を失った後も、「俺はこの街で生まれ育った。この街が好きだからこの先もここで商売を続ける！」と言って、国、県、市等のご指導をいただきながら、今、仮設店舗の準備に余念がありません。

そうした若者の将来を考える時、未永く反映し震災前よりも活気あふれる商店街の構築が是非必要です。そうした新たな商店街の想像を考えると、今は千載一遇のチャンスと捉えています。

気仙沼市は漁業と観光を産業の二本柱と位置付けておりますが、しばらくの間、漁業の苦戦が心配される中、観光にこれまで以上に力を入れる必要を感じております。このたびの大津波により、内湾および隣接する中心商店街の南町、魚町地域が広範囲に亘り被災したのを機に、内湾の景観を再構築し、日本三景松島に次ぐ宮城県の海の観光拠点として再生したいと考えています。

気仙沼の魅力である食と共に、風光明媚な景色も内外の方に楽しんでいただくために、そして、被災商業地が経済的に自立、発展していくために、現在計画されている防潮堤に頼らない海と共生するまちづくりを目指したいと考えます。

そして、隣接する中心商店街を便宜の良い市民の買物市場とするだけでなく、遠来の観光客に楽しんでいただける「海の幸」、買物市場や豊富な三陸の魚介類を活かす「屋台村」や「グルメ飲食街」も併設して消費者のニーズに応じて参ります。

更には継続的な県内外からの集客と文化の薫り高い気仙沼市を目指して、藤氏の傑出した子供達の芸術グループ「八幡太鼓」やジャズバンド「スイングドルフィンズ」そしてミュージカルグループ「うを座」等が活動拠点とし、全国の子供たちとの交流の場とする「子供アートホール」など集客拠点となるコンベンション施設を整備検討し、活性化を目指します。

人の命を守ることを第一義に減災を徹底させ、安全で魅力的な観光都市の構築のために、工学博士で都市マネジメント学科を指導する今西肇教授を中心に東北工業大学の関連専門教授のご指導を仰ぎながら勉強会を重ねて参りました。

勉強会を通じて私どもは、国や県などで計画されております防潮堤の整備計画は観光に力を注いでいくためには容認しがたく、防潮堤に頼らない海と共生したまちづくりを進めていきたいと強く想いお願いいたす次第です。

私共、被災した沿岸商店主は末永くこの街で商売をつづけ、幸せな生活を可能にする新たなまちづくりに未来を懸けております。

宮城県や気仙沼市の復興の先駆けとして、三陸の海と共生する被災地の復興モデルとして、県民の希望に繋がる計画としてぜひ、村井嘉浩知事様には私どもの構想に命を吹き込んでいただき、速やかに実行していただくために、ご理解とご支援を賜りたく、ここに謹んで嘆願いたします。

## 記

### 一、 防潮堤に頼らない海と共生する中心市街地の活性化

- ・ 防潮堤を兼ねた緑地公園（親水公園）の整備
- ・ 風光明媚な内湾を楽しむことのできるペDESTリアンデッキによる、陣山への遊歩道整備

### 二、 震災前より活気ある中心市街地商店街の活性化

- ・ 食材市場、屋台村、グルメ高級飲食街、総合くらしの商店街の整備
- ・ 子供アートホールの建設

### 三、 街なか居住の推進、歩いて暮らせるコンパクトな中心市街地の活性化

- ・ 仮設住宅入居期限後および買物難民対策を見据えて良質なゲタバキ中層公営住宅の整備

以上を進めていただきたく存じます。